

# 栃木県におけるダニ媒介性感染症病原体の実態調査

栃木県保健環境センター 微生物部

## 1 はじめに

病原体を持つダニ類に咬まれると、感染症にかかることがあります。ダニ類によっておきるヒトの感染症には日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、つつが虫病、ライム病、ダニ媒介性脳炎など様々です。これらの感染症にかかり、死亡した事例も報告あり、栃木県内でのダニ類による感染症は、つつが虫病が年に数例発生している状況でしたが、2014年11月に県内で初めて日本紅斑熱の患者が発生しました。また、国が行ったSFTSウイルスの国内分布調査では、栃木県内で採取したマダニからSFTSの原因となるウイルスが検出されています。

今回、当センターで行った調査は、栃木県内のダニ類による感染症の感染リスクを把握するために行った。2016～2018年度の3年間でダニ類の生息状況調査、感染症の原因となる病原体の保有状況調査を実施しました。

## 2 結果

3年間で採取したマダニは218個体で、3種類のマダニが確認されました(表)。ヤマトマダニ3検体、キチマダニ1検体から感染症の原因となる紅斑熱群リケッチアという病原体の遺伝子が検出されました。

## 3 考察

今回の調査結果から、栃木県内のダニ類による感染症のリスクは低いと考えられました。このような調査を通じて栃木県内にある、又は今後、栃木県外から侵入の可能性がある病原体を監視することは重要です。

今後も監視を続け、栃木県内のダニ対策、ダニ類による感染症の早期発見や治療等に役立てたいと考えています。

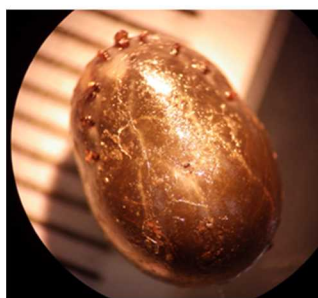
表 マダニの生息状況

マダニの種類	採取地区					計(%)
	県北	県南	県東	県西	宇都宮市内	
キチマダニ	30	9	0	6	124	169(77.5%)
フタトゲチマダニ	3	14	5	4	4	30(13.8%)
ヤマトマダニ	8	0	0	11	0	19(8.7%)
計(%)	41(18.8%)	23(10.5%)	5(2.3%)	21(9.6%)	128(58.7%)	218(100%)

マダニ



↑吸血前 3～8mm



↑吸血後 10～20mm